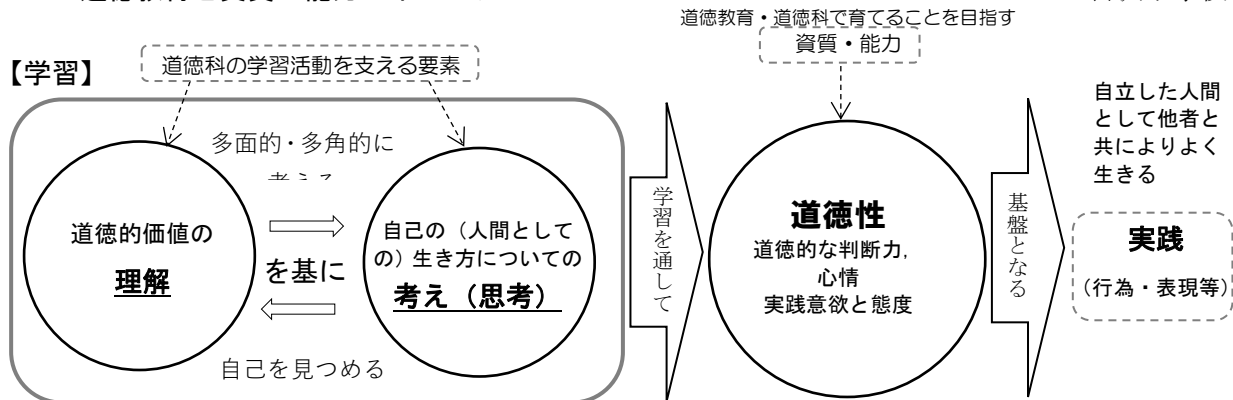


道徳科における授業づくりについて

1 道徳教育と資質・能力のイメージ

宮沢小学校



道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習

2 主体的・対話的で深い学びにつながる指導法

（１）読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

- 自分との関りから（自分事として）考えさせる。
- 多面的・多角的に考えさせる。
- ⇒ 道徳的価値の理解

（２）問題解決的な学習

- 根拠を問う発問
- 実際に自分に当てはめて考えてみることを促す発問
- 実際の場面で道徳的価値の意味を考えさせる発問
- ⇒ 道徳的価値に係る問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を育成する。

（３）道徳的行為に関する体験的な学習

- 役割演技 等
- ⇒ 様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を育成する。

3 資料

モラルジレンマ資料、オープンエンドの資料、資料の分割提示など、資料の選定や提示方法を工夫する。

4 評価

（１）評価の視点

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

（２）評価の方法（②③は参考／年間を通した児童の成長や変容を捉えられるような蓄積が必要）

- ① 道徳ノート・自己評価シートや授業記録などを参考にする。
- ② 通知表は、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目の評価を中心に記述する。
(例)「正直誠実」の学習では、自分の心に正直でいられるように、自分自身の行動を振り返っていきたい。」と授業を通して考えたことをノートに書き、今後の生活に生かしたいという気持ちを持ちました。
- ③ 指導要録は、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を記述する。
(例) 友達の考えと自分の考えを比較しながら、進んで自分の考えを伝えていた。